

令和元年度自己点検・評価について

自己評価総括委員会委員長（学長）

片山 憲一

1. 令和元年度の自己点検・評価について

令和元年度の自己点検・評価活動は、教学自己評価委員会において、第3期の日本高等教育評価機構（以下「評価機構」という）の評価基準による自己点検・評価の実施及びエビデンスの確認を行い、自己点検評価書を作成することといたしました。

管理運営自己評価委員会では、学園及び大学の諸規則の点検・評価を実施し、改正等が必要な諸規則については改廃手続きを行うなど、諸規則の整備を行いました。

また、大学院工学研究科において、大学院の現状把握並びに「研究活動と大学院生の関わりについての調査」等を踏まえた自己点検・評価を行い、研究支援体制の強化方針を策定いたしました。

2. 評価結果について

(1) 教学自己評価委員会による自己点検・評価の実施について

評価機構が定める6つの評価基準と各評価項目で自己点検・評価を実施いたしました。その結果を踏まえ自己点検評価書（評価機構様式）に評価項目毎の自己判定と自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）を記述するとともに自己判定の理由の根拠となるエビデンス等を確認し、自己点検評価書の作成を行いました。

今回作成した自己点検評価書については、令和2年度の自己点検・評価に引き継ぎ、令和3年度に受審予定の大学機関別認証評価につなげていきます。

(2) 管理運営自己評価委員会による自己点検・評価について

大学事務局が中心となり、181件の諸規則を対象に点検を実施しました。その結果、令和元年度内に改正が必要な諸規則61件及び廃止が必要な諸規則7件について、所定の手続きを完了しました。なお、改正が必要と認められたものの手続きが未完了の12件の諸規則については、令和2年度内に速やかに手続きを行うよう所管担当に勧告致しました。

(3) 大学院工学研究科による自己点検・評価について

大学院工学研究科では、専任教員を対象に「研究活動と大学院生の関わりについての調査」、また大学院生を対象に「令和2年度入学予定者の新しい大学院奨学生制度の認知度調査」等を実施し、大学院の現状把握を行いました。これらの結果を踏まえ、本学大学院の認知度と進学者数の向上を目指し、「大学院ブランドの向上」、「早期進学決定者の確保」、「カリキュラムの見直しと教員組織の検討」の柱からなる研究支援体制の強化方針を策定しました。

3. 所見

令和元年度の自己点検・評価では、目標どおり教学自己評価委員会による評価機構が定める評価基準による自己点検・評価と自己点検評価書の作成、管理運営自己評価委員会による諸規則の点検・整備及び大学院工学研究科の自己点検・評価による「研究支援体制の強化方針」を策定することができました。

令和元年度末に新型コロナウイルスの感染が拡大し、その対応のため自己点検・評価活動が一部滞りましたが、教職員の協力を得て遅れを取り戻し、令和2年度の自己点検・評価活動を遅滞なく完成させたいと考えています。諸規則の点検・評価につきましては令和元年度の結果を踏まえ、諸規則の改廃整備を進めております。大学院の「研究支援体制の強化方針」については、その実施方法も含め、本年度以降も継続して検討を行って参ります。

引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策が続きますが、学生の学修機会の確保等、本来業務を全うして、自己点検・評価と内部質保証の確立に向けた活動に取り組み、令和3年度の大学機関別認証評価の受審に向け、万全を期す所存です。

以上